

25年度決算の特徴

予算（補正後）との比較

<資金収支>

単位・・・千円

	予算①	決算②	差異②-①
(収入)			
学生生徒等納付金収入	660,727	662,104	1,377
手数料収入	25,495	18,909	▲ 6,586 ※1
寄付金収入	0	800	800
補助金収入	462,558	450,587	▲ 11,971 ※2
資産運用収入	6,870	6,684	▲ 186
資産売却収入	0	8,500	8,500 ※3
事業収入	12,168	9,157	▲ 3,011
雑収入	14,826	17,121	2,295
前受金収入	142,300	142,612	312
その他の収入	477,681	479,634	1,953
資金収入調整勘定	▲ 132,126	▲ 132,917	▲ 791
前年度繰越支払資金	266,664	266,664	0
合計	1,937,163	1,929,855	▲ 7,308
(支出)			
人件費支出	949,230	944,705	▲ 4,525
教育研究経費支出	398,029	389,675	▲ 8,354 ※4
管理経費支出	192,006	189,605	▲ 2,401
施設関係支出	94,000	92,340	▲ 1,660
設備関係支出	31,170	30,160	▲ 1,010
その他の支出	57,380	61,223	3,843
資金支出調整勘定	▲ 21,182	▲ 28,419	▲ 7,237
予備費	3,100	0	▲ 3,100
次年度繰越支払資金	233,430	250,566	17,136
合計	1,937,163	1,929,855	▲ 7,308

※1 入学検定料収入の減収

※2 大阪府経常費補助金の補助金単価が予算比20千円減額(単価300千円)による減収

※3 天王寺寮売却による増収

※4 奨学費の減少

前年度決算との比較

(1) 資金収支－収入の部

- ①収入合計・・・前年度比245百万円増加の1,663百万円となる。
 - ・詳細は以下のとおりであるが、特に特定預金等の取崩収入が前年度比225百万円増加している。
- ②学納金収入・・・前年度比64百万円減少の662百万円となる。
 - ・大学部門は学生数の減少により34百万円の減少。
 - ・高校部門は大阪府支援補助金の増加による授業料収入の減少（18百万円・・下記内訳①）と入学者数の減少による入学金収入の減少（12百万円）で、学納金収入は30百万円の減少。
- ③補助金収入・・・前年度比18百万円増加の451百万円となる。
 - ・大学部門は3百万円の減少。
 - ・高校部門の経常費補助金は、補助金単価が約300千円と前年度比20千円引下げにより13百万円の減少。
- ④雑収入・・・前年度比16百万円の減少となる。
 - ・退職者の減少による、退職金財団からの交付金収入が13百万円の減少。
- ⑤前受金収入・・・前年度比14百万円増加の143百万円となる。
 - ・大学部門は入学者数は増加（編入含め24名増）となるが、前受金収入は前年度並み。
 - ・高校部門は入学者数の増加（41名増）により13百万円の増加。
- ⑥特定預金（有価証券）取崩について
 - ・特定預金（有価証券）の取崩は前年度比225百万円増加の450百万円の取崩を行っている。

(2) 資金収支－支出の部

- ①支出合計・・・前年度比12百万円増加の1,679百万円となる。
- ②人件費支出・・・前年度比10百万円減少の945百万円となる。（内退職金支出が16百万円の減少）
 - ・大学部門は国際交流学部開設及び法人本部からの転籍による教員の増加で35百万円の増加。
 - ・高校部門は教員、非常勤講師で13百万円の減少。
 - ・法人本部は国際交流学部開設に伴う大学部門への転籍などにより、16百万円の減少。
 - ・退職者の減少により、退職金支出が16百万円の減少。
- ③教育研究経費支出（奨学費除く）・・・前年度比1百万円減少の216百万円となる。
 - ・大学部門は2学部に伴う増加と電気料金の値上げなどにより7百万円の増加。
 - ・高校部門は3号館などの施設改修やLL教室の施設設備更新などの支出が無くなったことによる17百万円の減少と、強化クラブへの8百万円支出の増加など結果、全体では8百万円の減少。
- ④奨学費支出・・・前年度比7百万円減少の173百万円となる。
 - ・大学部門は特待制度の入学者、在学生の増加により11百万円の増加。
 - ・高校部門は大阪府支援補助金の増加や入学者数減少による入学金への奨学金の減少により18百万円の減少。
- ⑤管理経費支出・・・前年度比10百万円減少の190百万円となる。
 - ・大学部門は2学部に伴う募集費用の増加や24年度経常費補助金10百万円の返還などにより23百万円の増加。
 - ・高校部門は派遣職員増員などにより6百万円の増加。
 - ・法人本部は新学部設置関連経費の支出が無くなったことにより40百万円の減少。
- ⑥施設設備関係支出・・・前年度比2百万円減少の122百万円となる。
 - ・大学部門は平成24年度からの繰延を含む日根野グランド整備工事終了に伴う支出92百万円計上などにより81百万円増加。
 - ・高校部門は3号館などの施設改修やLL教室の施設設備更新の支出が無くなったことから22百万円の減少。
 - ・法人本部は新学部設置経費の支出が無くなったことにより61百万円の減少。

(3) 資金収支差額及び次年度繰越支払資金（キャッシュフローベース）

- ・25年度の資金収入1,663百万円（特定預金450百万円取崩収入を含む）に対し資金支出が1,679百万円となり、資金収支差額は前年度の△249百万円に対し△16百万円となる。
また、次年度繰越支払資金も前年度比16百万円減少の251百万円となる。
- ・25年度末の手持ち資金総額は、資金収支差額△16百万円と特定預金取崩450百万円により前年度比466百万円減少し（16百万円+450百万円）、263百万円となる。

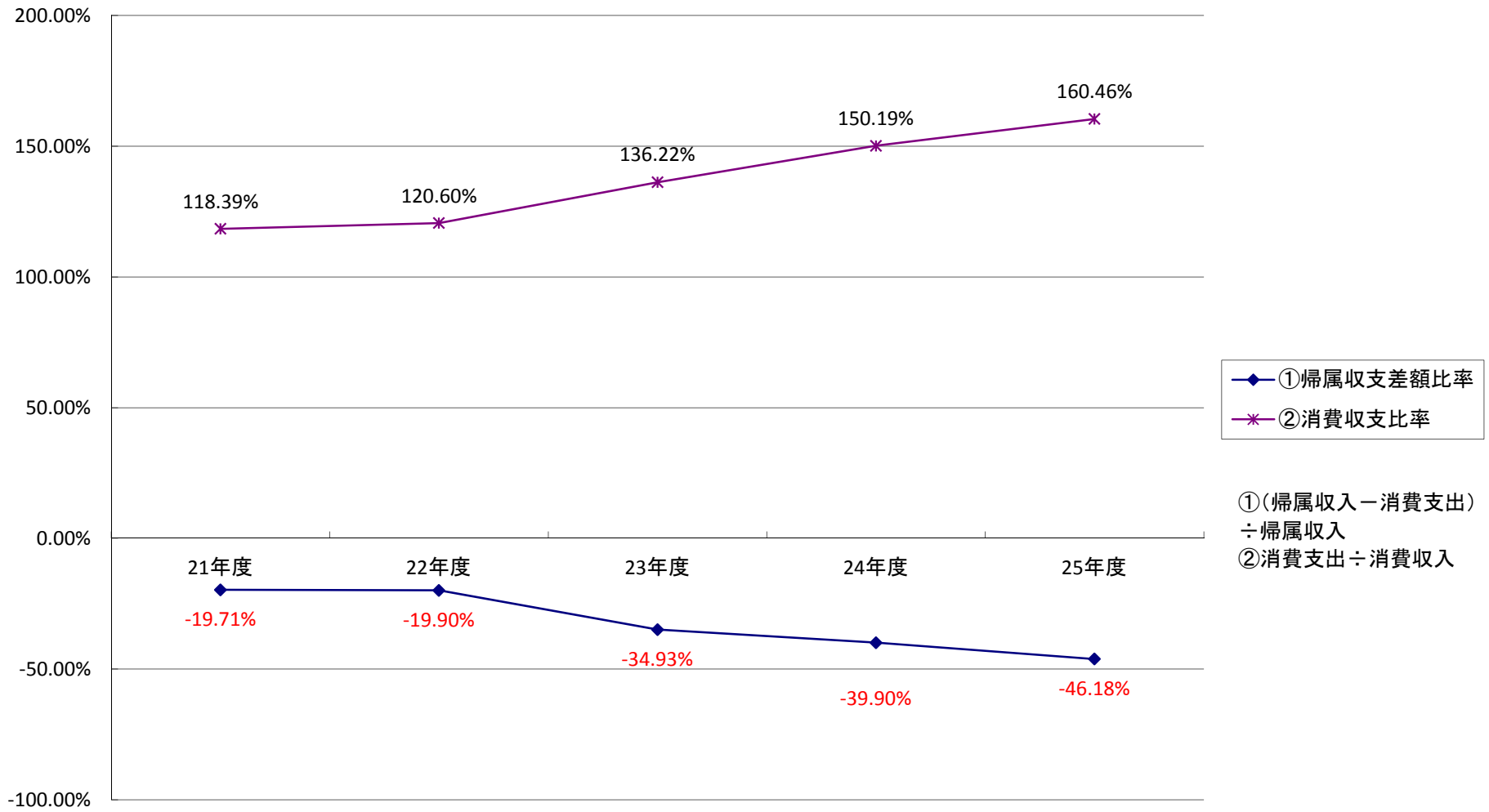
(4) 単年度の資金収支差額について（前受金や特定預金取崩収入などを除いた資金収支）

- ・単年度の資金収支差額は、収入1,174百万円に対し支出1,646百万円となり、前年比26百万円悪化の△472百万円となる。

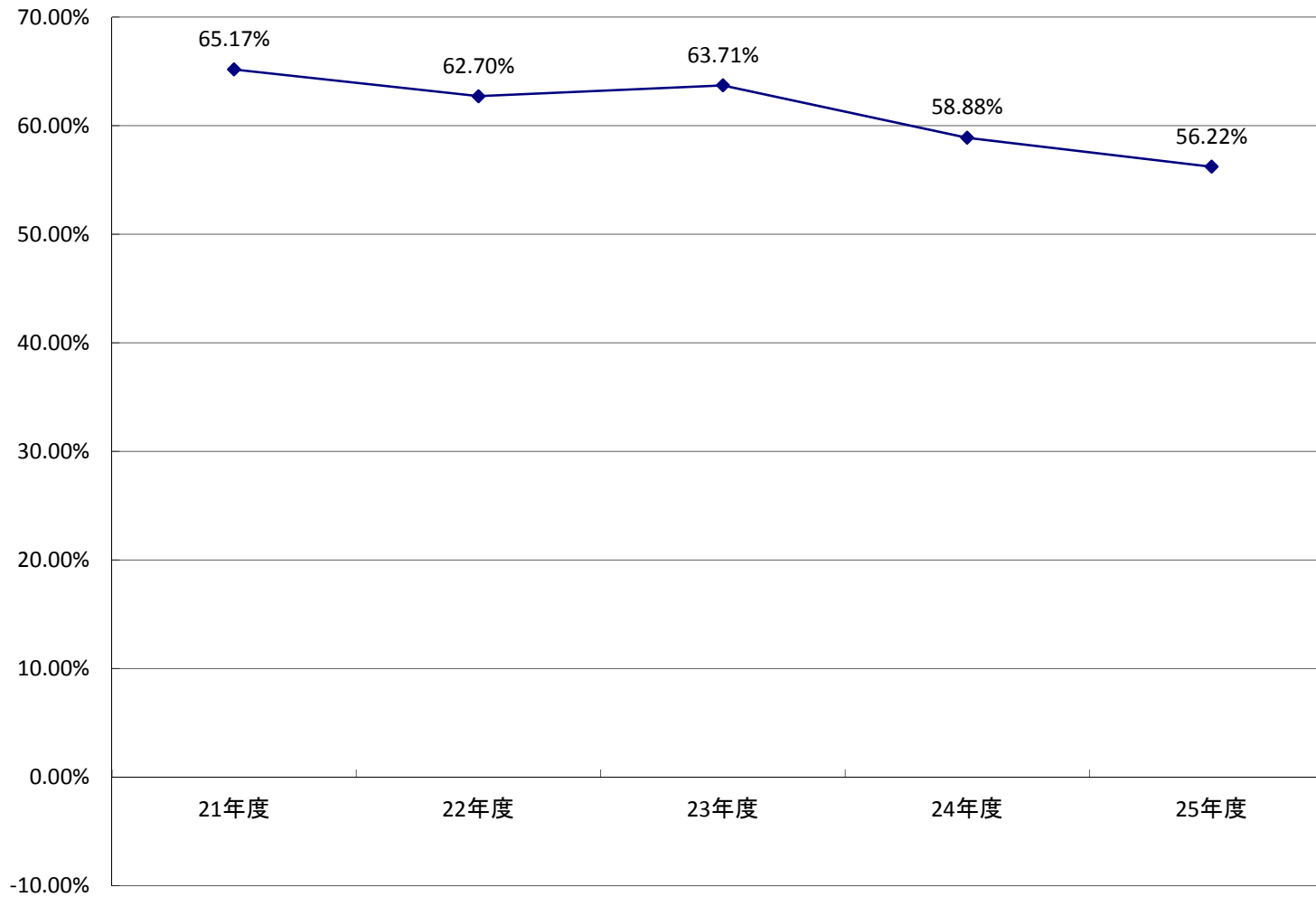
(5) 消費収支

- ・帰属収支差額は、上記資金収支で説明した要因から帰属収入が1,178百万円、消費支出が1,722百万円となり帰属収支差額は前年度比52百万円悪化の△544百万円、帰属収支差額比率は6.3%悪化の△46.2%となる。

財務比率 -その①-



財務比率 -その②-



帰属収入に対する比率

◆ 学生生徒等納付金比率

① $\text{学生生徒等納付金} \div \text{帰属収入}$

財務比率 -その③-

